



Japanese-Language Education Overseas

## 海外における 日本語教育

より多くの人々に日本語を学ぶ機会が与えられるように、  
そして、日本語学習を長く継続できるように、  
日本語をより学びやすく、より教えやすいものとするため、  
日本語教育の基盤や環境の整備を行います。  
また、各国・地域の政府や自治体、教育機関等と連携して、  
それぞれの教育環境、教育政策、学習者の目的や関心に  
十分に対応した事業を行います。





## 海外における日本語教育事業の概要

### 海外における日本語普及のための 基盤・環境の整備

日本語を更に多くの人々に学んでもらえるよう、日本語を世界のどこにおいても学びやすく、教えやすいものとするために、日本語教育の基盤や環境の整備に向けた事業を行っています。

>>>>P.23

### 国・地域の事情に応じた 日本語普及

教育環境、学習者の目的や関心、日本語普及上の課題は、国や地域によって、さまざまです。それぞれの国や地域の実情に合った日本語教育の支援を進めています。

>>>>P.27



「JF 日本語教育スタンダード」  
の活用推進

JF日本語講座

インターネットを活用した教育ツール

日本語能力試験（JLPT）

日本語専門家の海外派遣

日本語教育支援プロジェクト

経済連携協定（EPA）に基づく  
看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

海外の教師・学習者を対象とした研修



# 海外における日本語普及のための 基盤・環境の整備

## 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

言葉を通じた相互理解のためには、その言語を使ってどんなことができるかという「課題遂行能力」の向上と、様々な文化に触れることで視野を広げ、いかに他者の文化を理解し尊重するかという「異文化理解能力」の育成が重要です。この理念のもと、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールである「JF 日本語教育スタンダード」（以下、JF スタンダード）を開発し、その活用推進に向け日本国内外でのセミナー、研修会を通して、幅広い情報提供と利用方法の紹介等を行ってきました。

2013年度は『JF 日本語教育スタンダード 2010』第2版第2刷を対外発表し、前述のセミナー等で同冊子を配布しました。また、JF スタンダードのウェブサイトにて同スタンダード準拠コースブック『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）専用ページを開設・更新し、同ウェブサイトのユーザーに『まるごと』を紹介すると同時に、『まるごと』のユーザーにも同教材の基盤であるJF スタンダードの情報を提供しやすくしました。更に、『まるごと』の学習目標に対応した「JF まるごと Can-do」56件を「みんなの『Can-do』サイト」に追加し、同サイトのデータベースを拡充しました。

その他、JF スタンダード普及に関連するセミナー、ワークショップ、調査研究、シンポジウムなどに対し助成を行い、それらの事業においてJF スタンダードの具体的な活用方法・事例を説明・紹介するための講師派遣等を行いました。

### ■『まるごと 日本のことばと文化』市販化

『まるごと』は、日本語能力のとらえ方、レベル設定、目標設定と評価の方法等について、JF スタンダードに基づいて国際交流基金が開発したコースブックです。『まるごと』の名前には、ことばと文化を「まるごと」、リアルなコミュニケーションを「まるごと」、日本人のありのままの生活や文化を「まるごと」の3つの意味があります。これらの「まるごと」を込めた『まるごと 日本のことば

と文化』入門(A1)「かつどう」及び「りかい」を、2013年9月に市販化しました。

11月には東京で、12月には大阪で、『まるごと』の内容や同教材を使った教授法を紹介するセミナーも実施しました。

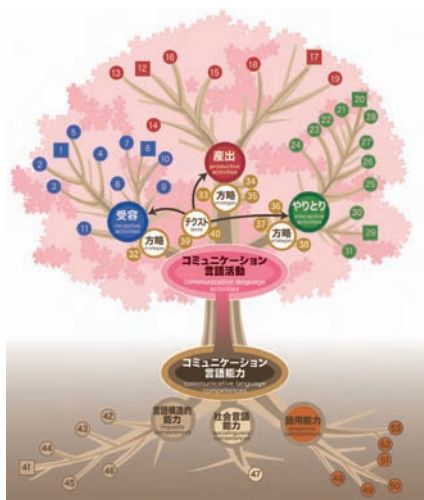
この『まるごと』の制作プロジェクトは、初級1(A2)、初級2(A2)および初中級(A2/B1)の市販化、そして中級1(B1)試用版の刊行を目指して進行中です。



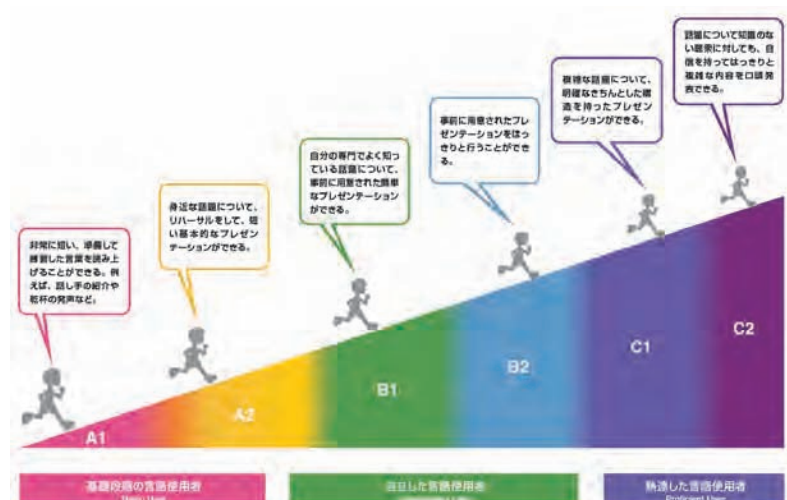
市販『まるごと 日本のことばと文化』入門(A1)「かつどう」「りかい」



『まるごと 日本のことばと文化』入門(A1)刊行記念セミナー(大阪)



「JF 日本語教育スタンダード」



## JF 日本語講座

JF スタンダードに準拠した新しいタイプの日本語講座を実施し、より学びやすく、教えやすい日本語の学習モデルを提示します。また言葉と文化の総合学習を重視し、日本語教育を通じた相互理解を推進します。

海外の日本語教育における新たなニーズに対応するため、2011 年度より一般市民を対象とした日本語講座（通称：JF 講座）の拡充を図っています。2012 年度の「日本語教育機関調査」の結果、海外の日本語学習者数の伸びに注目が集まりました。日本語学習の目的については、留学や就職という実利的な目的よりも、日本語そのものへの興味や、J-POP、アニメ・マンガ等ポップカルチャーを通して日本文化に親しみを感じ日本語を勉強してみたいという学習者が多く、前回調査より伸びていることがわかりました。

こうした現状を踏まえ、JF 講座では、JF スタンダードを取り入れた新たなカリキュラムを導入し、講座の充実とリニューアルに取り組んでおり、『まるごと 日本のことばと文化』を用いた、今まで以上に日本文化理解に重点をおいた授業が行われています。2013 年度には、国際交流基金の海外拠点 23 ヶ所と、7 ヶ所の日本センターでそれぞれ JF 講座が開講され、延べ 16,000 人以上の学習者が受講しました。2014 年度も新たにカンボジアで講座を開講し、日本語と日本文化の総合的学習を推進していく予定です。



## ■文化日本語講座

JF 講座では、文化交流の総合的な実施機関である国際交流基金の特徴を生かして、語学の教室の外でも、音楽や映画、美術、料理など様々な日本文化に触れるイベントや日本に関する最新の情報、文化交流プログラムなどを提供します。これが、文化日本語講座です。JF 講座の受講者はこうした文化体験を通じて、日本という異文化への視野を広げ、より深く理解する力を身につけることができます。

ニューデリー日本文化センターでは 2014 年 2 月に、舞妓 2 人と女将によるレクチャーとデモンストレーション「舞妓さんと学ぶ日本語」を開催しました。日本舞踊や茶道お点前の披露の他、女将による花街のシステムや舞妓の衣装に関する説明、「京ことば」のレッスン、舞妓に直接質問ができる質疑応答など盛りだくさんの内容で、連日立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

インドでは近年、日系企業が多く進出し、日本文化や日本語学習に対する関心が高まりつつあります。しかし実際に日本文化や日本人に直接触れる機会が少ないインドで、舞妓の舞や所作、言葉遣いを生で見て、感じるという体験は、インターネットやメディアを通してでは得られないものであり、多くのインド人の心に残る貴重な体験になったようです。



### 『海外の日本語教育の現状 2012 年度日本語教育機関調査より』の発行

国際交流基金では、世界の日本語教育の現状を正確に把握し、今後の施策に活用するため、3 年ごとに全世界を対象とした「日本語教育機関調査」を実施しています。調査の結果は、報告書にまとめて一般に公開しています。2013 年度には、2012 年度調査の集計及び分析結果をまとめた『海外の日本語教育の現状 2012 年度日本語教育機関調査より』（本冊）とその「概要」（日・英）及び「結果概要抜粋」を発行しました。

「結果概要抜粋」はウェブサイト（<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/survey12.html>）でも公開しています。



## インターネットを活用した教育ツール

日本語教師向けに、教材作成のための様々な素材や、教師間の情報交換の場を提供し、教師の日々の活動を支援するウェブサイト運営しています。また、学習者向けに、それぞれの学習目的に応じて利用できるウェブサイト運営しています。

### ■「まるごと+(まるごとプラス)入門(A1)」スペイン語版を追加姉妹サイト「まるごとのことば」を公開

『まるごと 日本のことばと文化』の学習者向けサポートサイト「まるごと+ 入門(A1)」に、スペイン語版を追加し、日・英・西の3言語を揃えました。また、教科書で使われている語彙や表現をまとめた「まるごとのことば」サイトを新たに公開しました。「まるごとのことば」はローマ字でも表示、検索ができること、基本的なことばをまとめたイラストがダウンロードできる等、多くの日本語学習者に利用してもらえるよう工夫を施しています。



「まるごとのことば」トップページ

### ■「NIHONGO e な」iOS、アンドロイド・アプリも紹介

個人でスマートフォンやタブレットを持つことが一般的になり、時間や場所を選ばず、日本語の学習ができるようになってきました。「NIHONGO e な」では、日本語の学習や日本文化の理解を深



めるのに役立つiOSやアンドロイド・アプリを紹介する「iOS版」「アンドロイド版」ページを追加公開しました。今後も、日本語の勉強に役立つコンテンツ情報の配信を続けていく予定です。

「NIHONGO e na iOS版」トップページ

### ■「アニメ・マンガの日本語」ますます利用広がる

2011年度に全てのコンテンツが完成した「アニメ・マンガの日本語」ウェブサイトには、フェイスブック等から訪れるユーザーも多く、口コミでもますます利用の輪が広がっています。また、国際交流基金の海外拠点等の「アニメ・マンガで日本語を学ぶ」といったテーマの日本語講座でも利用されています。



「アニメ・マンガの日本語」クイズ：誰のセリフ?

### ■WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」文化クイズ改訂

インドネシア語版とフランス語版の追加によって、利用者が更になりました。また「文化クイズ」に、現代日本に関するクイズや便利な機能を追加しました。他にも、「あいうえお表」のルビ付き版の追加公開等、更に多くの日本語学習者にエリンと一緒に楽しく日本語と日本文化に挑戦してもらえるよう、サイトの充実に努めました。



WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」：文化クイズ 第8課 日本の食べ物クイズ

### ■「みんなの教材サイト」継続的な素材追加



日本語教師を支援する「みんなの教材サイト」は、開設から11年目を迎えました。2013年度には新しい写真・イラスト・読解素材を随時追加した他、レイアウトを変更する等、充実に目指しました。

「みんなの教材サイト」：新規写真おしらせ (SNS 利用)

## 日本語能力試験（JLPT）

日本語を母語としない人を対象とした日本語能力試験（JLPT：Japanese-Language Proficiency Test、以下 JLPT）を世界各国・地域で実施しています。小学生から社会人まで幅広い層の受験者によって、語学の実力測定のため、就職や昇進のため、大学等への入学のためと、様々に活用されています。

### ■ 全世界で 57 万人が受験

JLPT は日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定するための試験です。N1 から N5 までの 5 つのレベルの試験があり、受験者は自己の日本語能力に適したレベルを受験することができます。試験は、N1 と N2 は「言語知識（文字・語彙・文法）・読解」と「聴解」の 2 科目、N3～N5 は「言語知識（文字・語彙）」、「言語知識（文法）・読解」、「聴解」の 3 科目で構成されています。試験問題の作成と海外各地での試験実施は国際交流基金が、国内での試験実施は共催者である公益財団法人日本国際教育支援協会が、行っています。

2013 年度は 7 月と 12 月の 2 回、試験を実施しました。実施状況は次の通りです。

#### ・第 1 回（7 月 7 日）

海外 21 ヶ国・地域の 101 都市で実施。応募者約 23 万人、受験者約 20 万人。

国内 42 都道府県で実施。応募者約 6.5 万人、受験者約 6 万人。

#### ・第 2 回（12 月 1 日）

海外 63 ヶ国・地域の 202 都市で実施。応募者約 28 万人、受験者約 24 万人。

国内 44 都道府県で実施。応募者約 7.5 万人、受験者約 7 万人。

### ■ 実施の拡大

本年度も実施国・都市・回数が増えました。新たな実施国としてアルジェリアとマダガスカルが加わり、それぞれアルジェとアンタナナリボで 12 月の試験を実施しました。また、インドネシアではこれまでの 7 都市に加えて新たにマナドで 7 月試験を、カンボジアではプノンペンに加えて新たにシェムリアップで 12 月試験を実施しました。ウズベキスタンのタシケントは年 2 回の実施になりました。

### ■ オンライン化の推進

日本語学習者にとって JLPT をより身近なものにするため、オンライン化を進めています。これまで日本国内と、韓国、中国等海外 10 ヶ国・地域でオンラインの受験願書受付を行ってきましたが、本年度は新たにオーストラリアとハンブルク（ドイツ）でオンライン受付を導入しました。海外の受験者と国内の受験者のオンライン出願者はオンラインで自分の試験結果を知ることができます。また、「日本語能力試験公式問題集」を聴解問題も含め JLPT の公式ウェブサイトでご覧しており、無料でダウンロードできます。

<http://www.jlpt.jp/samples/sample12.html>

### ■ JLPT による認定の活用

約 30 年の歴史を持つ JLPT は、国内外で大学入試や卒業、留学、就職、昇進・昇格等に当たっての認定の基準として、ますます活用されるようになってきました。高度人材ポイント制による日本の出入国管理上の優遇制度において、N1 合格者には従来 10 ポイントが付与されていましたが、2013 年 12 月より 15 ポイントが付与されています。

『JLPT 通信』第 2 号（2014 年 2 月発行）では、現在日本で活躍している過去の受験者たちが、JLPT による日本語能力の認定が就学や卒業、就職等の際に条件であったり有用であったりしたこと、今の学業や仕事につながっていること等を語っています。

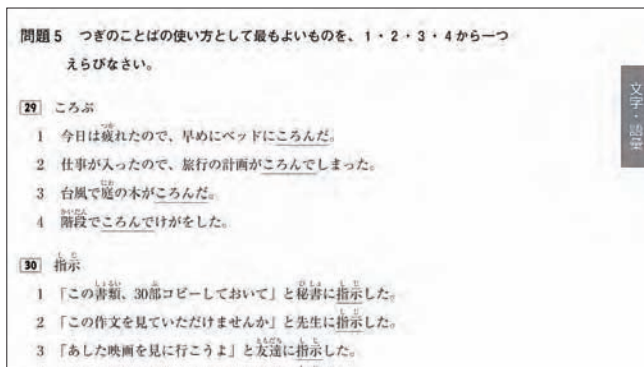
<http://www.jlpt.jp/reference/jlptbulletin1.html>



中国での試験風景



タイでの試験風景



日本語能力試験公式問題集（N3）より

## 日本語専門家の海外派遣

■世界 40 ヶ国で 124 人の日本語専門家が活躍

海外各国における日本語教育の定着と自立化の促進を目的に、各地に日本語専門家を派遣しています。2013 年度は 40 ヶ国に、124 人の専門家を派遣しました。派遣された専門家は、現地教師の育成、カリキュラム・教材の作成や教師間ネットワーク構築への支援、教室での日本語教授等、派遣先機関・国における安定的な日本語教育の実施や質的改善のための業務を行っています。

派遣先の 1 つであるメキシコでは、日本語専門家が国内外を巡回し、日本語教授法や JF スタンダードに関する教師のための研修会を多数実施しました。更に、日本語能力ブラッシュアップの機会や日本語の教え方に関する情報に乏しい中米・カリブ諸国の日本語教師の要望に応えるため、インターネットを介した講座「ハプロ・エンリネア」(メキシコ・中米・カリブの教師のためのオンライン日本語)を実施しました。「ハプロ」は、教室と遠隔地の先生方をオンラインで結んだ JF スタンダード準拠の日本語講座と、当地の先生方による発表や日本での研修の報告セミナーです。これらをライブ配信し、広大な中米・カリブ地域の各地で活動する日本語教師の方々の、幅広いニーズに応える活動を展開しました。



メキシコで活躍する日本語専門家

## 日本語教育支援プロジェクト

■世界 126 機関に拡大した「さくらネットワーク」

JF にほんごネットワーク(通称:さくらネットワーク)は、世界各地の日本語普及と日本語教育の質の向上を目的とする海外の日本語教育機関を繋ぐネットワークです。国際交流基金の海外拠点に加え、

周辺地域への波及効果の高い日本語事業を実施している機関・団体(大学や日本語教師会等)をメンバーとして認定しており、メンバー数は 2008 年 3 月発足時の 31 ヶ国 39 機関から、2013 年度末には 47 の国・地域の 126 機関にまで成長しています。

このネットワークのメンバーが申請できるプログラム「JF にほんご拠点事業(助成)」(通称:さくら中核事業)を通じて、メンバー所在国や地域への日本語の普及・拡大・発展につながる波及効果の高い事業を実施・支援しています。更に、国際交流基金の海外拠点のない国に向けた「日本語普及活動助成」プログラムにより、教材購入、講師謝金、スピーチコンテストや会議・シンポジウムの開催への助成を行う等、各国・地域のニーズに対応したきめ細かな日本語教育支援を行っています。

2013 年 6 月にブルガリアで開催されたバルカン半島日本語サマーキャンプも、さくら中核事業の成果の 1 つです。同キャンプには、ブルガリアに加えて、トルコ、ルーマニア、セルビア、マケドニアの 5 ヶ国の大学から 47 人が参加しました。日本語の授業に加え、書道、マンガ・アニメ等の日本文化に触れる機会もあり、参加者は日本語を含めた日本文化への理解を深めるとともに、近隣諸国で同じ日本語を学ぶ他の学生との交流を深めることによって、互いに切磋琢磨し成長していく貴重な機会を得ました。学習モチベーションの維持・向上にも寄与するこのようなネットワークを重視し、今後も広域的な波及効果の高い活動を支援していきたいと思えます。

## 経済連携協定(EPA)に基づく

### 看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

インドネシア、フィリピンと日本との二国間経済連携協定(EPA)に基づき、日本に受け入れる看護師・介護福祉士候補者を対象として、来日前の日本語予備教育事業(6ヵ月間)を両国で実施しました。事業の内容は、基本的な文法・語彙・会話を習得する日本語授業から、日本の社会・生活習慣等の基礎知識を習得する社会文化理解プログラムまで、多岐にわたります。候補者は、来日して病院や介護施設に配属された後は、仕事をしながら国家試験合格を目指すことになるため、効率的な学習習慣を身につけておく必要があります。そのため、本事業では自立学習支援にも力を入れ、候補者が自らの学習を計画し、振り返り、評価する訓練も行いました。

## 国内連携による日本語普及支援

国際交流基金では 2009 年度より、日本語教師養成課程を有する日本国内の大学と連携して、日本語教育を専攻する学生をインターンとして海外へ派遣しています。2013 年度は国内 43 大学から 346 人を派遣しました。

また、これと連動して、日本の大学からインターンを受け入れる海外の大学から、学部学生を招へいして関西国際センターで訪日研修を実施しています。この研修は、日本語学習や対日理解の機会を提供すると同時に、大学間の連携強化の支援を目的としています。2013 年度は、「夏季特別」、「夏季」、「秋季」、「冬季」の計 4 回を実施し、延べ 25 ヶ国から 127 人が研修に参加しました。

## 海外の教師・学習者を対象とした研修

### ■ 海外の教師を対象とした研修（日本語国際センター）

日本語国際センターでは2013年度に20のプログラムの日本語教師研修を実施しました。参加者は、60の国・地域から511人にのぼります。

「海外日本語教師日系人研修」は、中南米地域の日系人に日本語教育を実施している教育機関の、日系人日本語教師を対象に実施する研修です。2回目となる2013年度は、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ポリビアの4ヵ国から9人が2ヵ月間の研修に参加しました。年少者から成人まで幅広い層を対象に、日本語と同時に文化についても教えることの多い現地教育機関の現状を踏まえ、授業やカリキュラムの改善方法を考えました。現代の日本の社会や文化を実際に体験し、情報を収集し、それを自国での教育の中で生かす方法を考える「プロジェクトワーク」を、日本人大学生との協働作業も含めて行いました。また、三重、浜松で国内の日系人対象の学校を訪ね、JICA横浜の日系研修参加者と合同ワークショップを実施しました。参加者はこの研修で、世界全体における中南米の日本語教育を多くの視点で見直すと共に、日系人として自らが現場で担う役割を再認識し、今後日本語教育の充実と発展にますます貢献していくことでしょう。



海外日本語教師日系人研修

いま、東南アジア諸国では中等教育レベルでの日本語学習が大きく進展しています。同時に、「自分で学び、成長する力」「協働力」「自ら考える力」「発表力」等、これからの社会で求められる能力の育成が、学校教育の大きな目標として掲げられるようになりました。こうした目標を日本語教育のなかでどのように実現するのか、2013年9月、公益財団法人かめのり財団との共催で「にほんご人フォーラム」を開催し、考察しました。対象はインドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシアに日本を加えた6ヵ国で、高校生24人と中等教育レベルの教師11人が集まりました。高校生たちは、多国籍のグループに分かれて「便利なもの、その問題点と改善点」というタスクに取り組めます。生徒たちが協力しあって調べ、議論し、成果を発表する過程を教師が観察し、学びの実態を教案に反映させる作業に取り組まれました。今後も中長期的な視野で「にほんご人フォーラム」を進めていきます。

### ■ 海外の学習者を対象とした研修（関西国際センター）

1997年に大阪府に設立された関西国際センターでは、職業上、日本語能力を必要とする海外の専門家を対象とした「専門日本語研修」と、海外で日本語を学ぶ大学生・高校生等を対象とした「日本語学習者訪日研修」を実施しています。2013年度は、104の国と地域から684人が研修に参加しました。

東日本大震災を受けて2011年に開始した「米国JET記念高校生訪日研修」事業では、全米各地から選抜された高校生32人が、JETプログラムにより来日していた米国人2人が亡くなられた石巻市、陸前高田市を訪問し、遺族や縁のあった人々の支援のもと、「日米高校生サミット in 陸前高田 2013」をはじめとする交流活動に参加しました。

2013年度には他機関との更なる連携拡大に努め、和歌山大学、大阪大学に加え、関西学院大学とも連携協定を締結し、研修生の大学講義への参加、特別講義・留学セミナー開催といった包括的な大学紹介・交流プログラムを拡大しました。また新たに、堺市議会、皇學館大学、伊勢神宮、東芝未来科学館、オムロンコミュニケーションプラザや国際日本文化研究センターにおける講義等を研修プログラムに加えました。

関西国際センターでは受託研修事業の拡大にも力を入れていきます。その一例として、2011年度に外国政府の外交官・公務員を対象とする研修に参加したカタールの外交官が、研修後に本国のカタール政府に働きかけたことで、2013年度に同国政府から青少年の研修事業を受託しました。



カタール青少年訪日研修 広島研修旅行